

2019 年度ボランティアサークル主催オレンジリボン普及イベント第 4 回市民 公開講座報告

加藤重子 林君江 今坂鈴江 風間栄子 進藤美樹
藤尾順子 出田聡子 神中洸子

1. 日 時 : 令和元年 10 月 26 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場 所 : 新日本造機ホール(旧 くれ絆ホール)
3. テーマ : 「防ごう子ども虐待、地域で支えよう親と子」～子ども虐待防止と通告(通報)の正しい知識を得るとともに地域で支える人がいることを理解するために～
4. プログラム
企画: ボランティアサークル
運営: ボランティアサークル、フレッシュマンセミナー今坂/風間ゼミ 1 年生
総合司会 4 年生 森脇未来
主催者挨拶 ボランティアサークル 4 年生田中友梨
オープニング 広島文化学園大学看護学部吹奏楽部による演奏
プラチナレディースハンドベル部による演奏
シンポジウム: 「防ごう子ども虐待、地域で支えよう親と子」
ファシリテーター: 2 年生 道原彩乃 楠原千乃
シンポジスト: 呉市主任児童委員 中岡博美 様
稲垣ファミリーホーム 職員 中田友美 様
稲垣ファミリーホーム 専門里親 稲垣りつ子 様
NPO 法人 ピピオ子どもセンター弁護士 坂本啓介 様
呉市子育て支援課 山口弥生 様
オレンジリボン普及イベント: 呉氏 Jr ダンス
ハワイコーल्ズ&ウイラニによる演奏とフラダンス
感謝状贈呈式: ボランティアサークル長 田中友梨、副サークル長 松岡美咲
招待者 呉市主任児童員 沖本八洲子様
看護学部学部長挨拶 山内京子
5. 関係者: 広島文化学園大学看護学部小児看護学領域教員、吹奏楽部、自治会ボランティア
呉市子育て支援課 家庭児童 G、呉市西延崎プラチナクラブ
6. 共催 広島文化学園大学看護学部
共催 呉市
後援 呉市社会福祉協議会
NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク
広島県栄養士会

7. まとめ

広島文化学園大学看護学部ボランティアサークル主催の児童虐待防止イベント「市民公開講座」は、4回目を迎えた。第1回目・2回目は、呉市子育て支援センターのある広まちづくりセンターで開催し、3回目は、阿賀まちづくりセンターで開催した。今回は、呉市役所にある新日本造機ホール(旧くれ絆ホール)での開催となった。今回は、これまでの呉市共催、NPO 法人 児童虐待防止全国ネットワーク後援に加え、呉市社会福祉協議会および広島県栄養士会の後援を得ることができた。

当日は、呉市長 新原芳明様ご臨席のもと、盛大に第4回呉市民公開講座、オレンジリボン普及イベントが開催され、全体の来場者は、300 余名（民生委員、里親、呉市職員、地域の皆様、学生、ボランティア含む）であった。

児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議決定され、「児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策」の更なる徹底・強化について（抄）が平成31年2月28日付けで配布され、令和元年6月7日厚生労働省子ども家庭局長より「児童虐待防止対策におけるルールの徹底について」が配布された。以降も、痛ましい事態が次々と報道されている。参加者の児童虐待・児童虐待防止に関する関心は高まっているもののネットワーク体制づくりや児童虐待防止の具体策については、課題が山積している。

1) 子ども虐待防止市民公開講座参加者の児童虐待に関する認知度についてアンケート調査

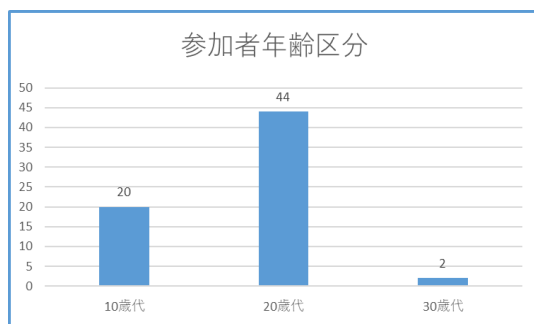
(1) 質問項目

- 問1 オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマーク
- 問2 オレンジリボンの由来について
- 問3 児童虐待の種類について知っているもの
- 問4 通報ができるところ
- 問5 通報は、疑いがあると思うでもできること
- 問6 通報しても通報者が特定されないことについて
- 問7 オレンジリボンの周知や児童虐待防止の啓発のは、どのような方法が有効だと思いますか。
- 問8 児童虐待防止のためにどれが最も有効であると思いますか
- 問9 児童虐待防止のために、あなた自身ができること

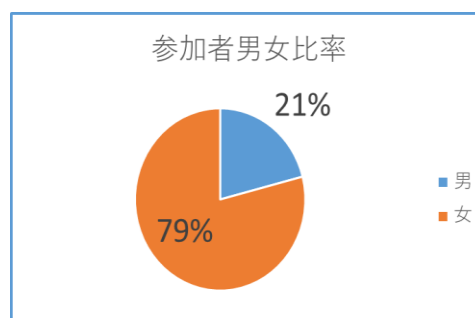
今回の参加者の認知度は、以下のような結果であった。

趣旨に同意した学生 75 名、一般 70 名よりアンケートの提出があった。

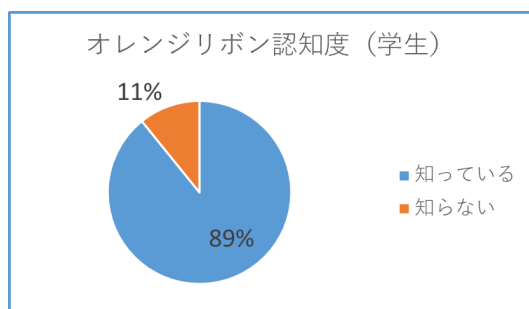
(2)学生 年齢区分



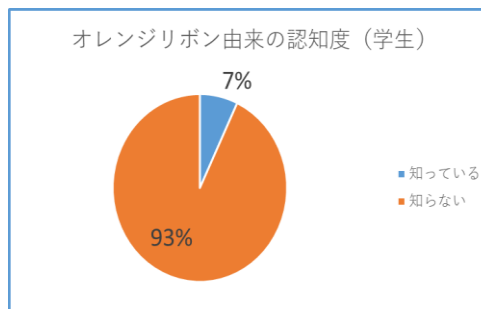
男女比



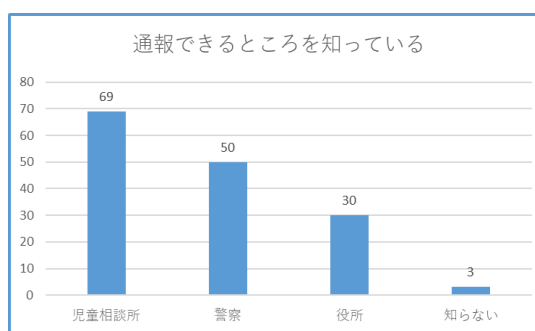
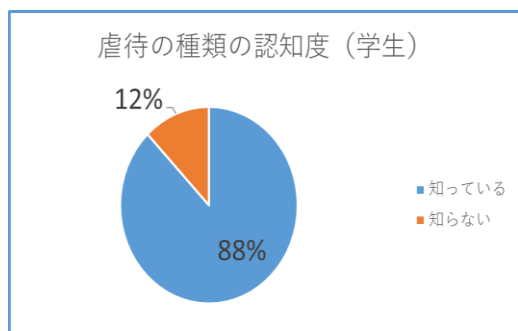
問1 児童虐待防止のシンボルマーク



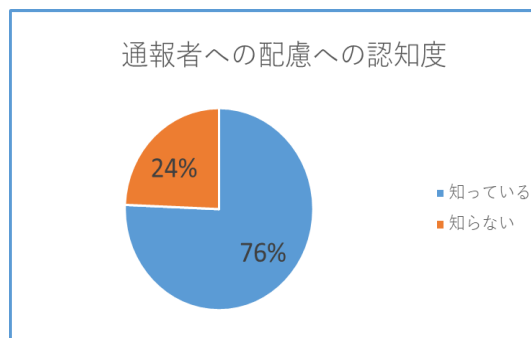
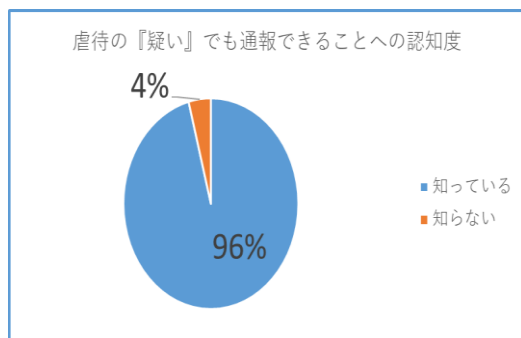
問2 オレンジリボンの由来について



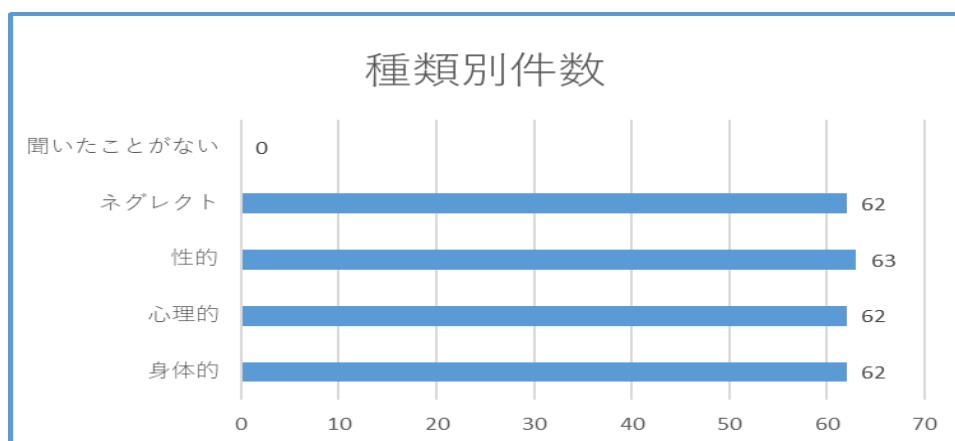
問3 児童虐待の種類について知っているもの 問4 通報ができるところ



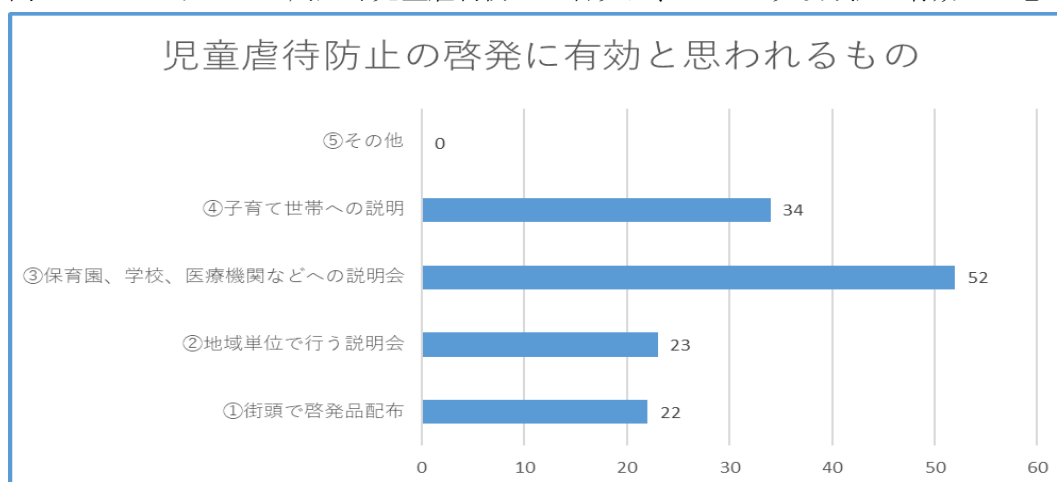
問5 通報は、疑いがあると思うでもできること 問6 通報しても通報者が特定されないこと



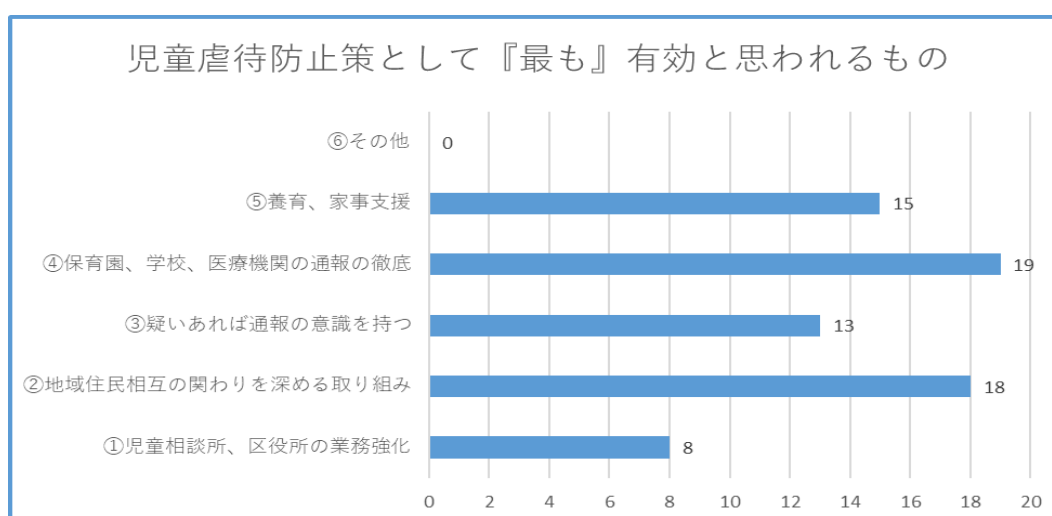
知っている虐待の種類



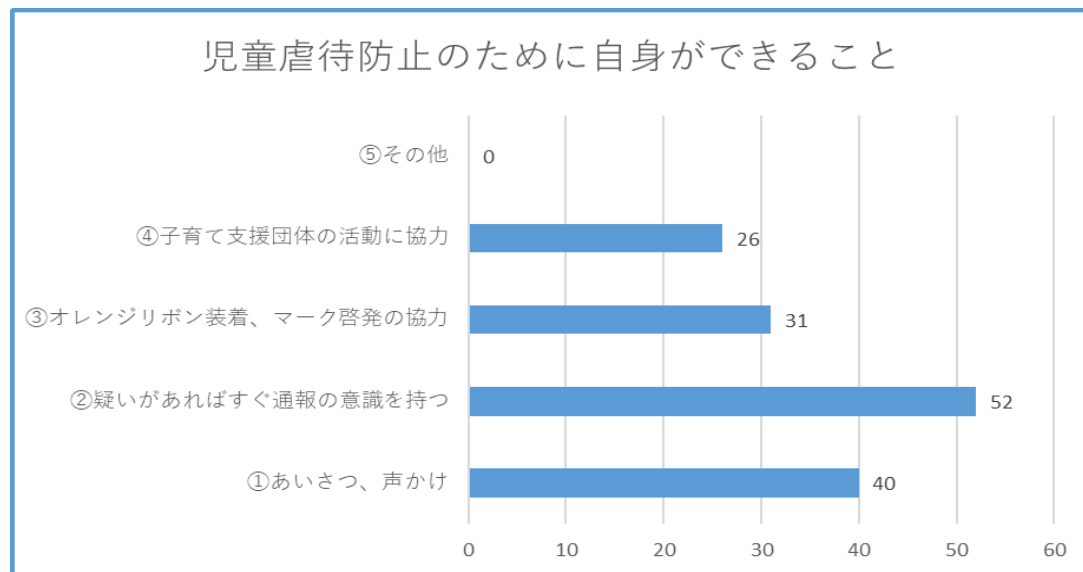
問7 オレンジリボンの周知や児童虐待防止の啓発は、どのような方法が有効だと思いますか。



問8 児童虐待防止のためにどれが最も有効だと思いますか



問9 児童虐待防止のために、あなた自身ができること

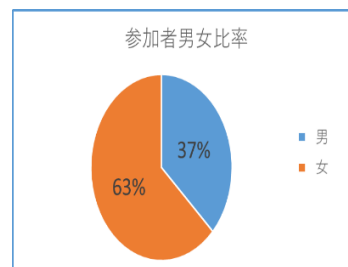
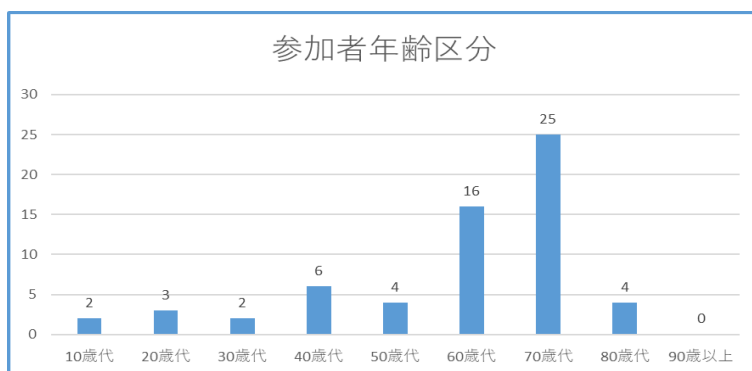


学生のアンケート結果のまとめ

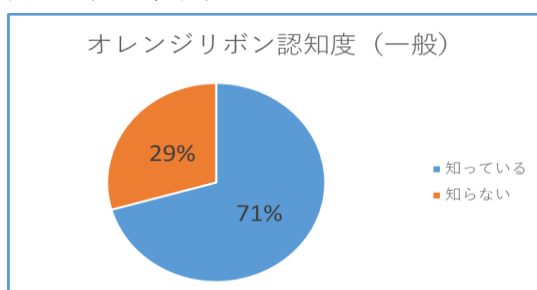
- ・オレンジリボンの認知度（学生）は、前年度とほぼ変わらずか若干増加（前年 87%から 89%）一般に比べ2割程度認知度が高かった。
- ・オレンジリボンの由来の認知度は、前年度に比べ減少した。（前年 13%から 7%）
- ・虐待に種類があることへの認知度は、前年と変わらず（88%）一般に比べ3割以上認知度高かった。「知っている」と回答した者は、身体的・心理的・性的・ネグレクトの全てに回答している者が多かった。
- ・虐待の疑いでも通報できることを「知っている」と回答した者は、前年度に比べ増加し9割以上の学生が認知していた（前年 85%から 95%）
- ・通報者が特定されないよう配慮されることを「知っている」と回答した者は前年度に比べやや増加（前年 68%から 76%）
- ・オレンジリボンの周知、児童虐待防止の啓発に有効だと思われる方法では、「③保育園、学校、医療機関などへの説明会」が最多で、次いで「④子育て世帯への説明」が多く回答された。回答順位や割合は一般と同じであった。
- ・児童虐待防止のために最も有効であると思われる対策では、前年度同様、「④保育園、学校、医療機関の通報の徹底」が最多、次に「②地域住民相互の関わりを深める取り組み」であった。一般では「②地域住民相互の関わりを深める取り組み」が最多である中、学生は、④が多いのは、看護学の学修が影響しているのではないかと。
- ・児童虐待防止のための自身の取り組みでは、「②疑いがあればすぐ通報の意識を持つ」が最多であった。一般では地域のコミュニティの一員としての意識があるため「①あいさつや声掛けを心掛ける」が最多であり、地域住民相互の関わりを深めることへの関心が高まっている。

(3)一般 年齢区分

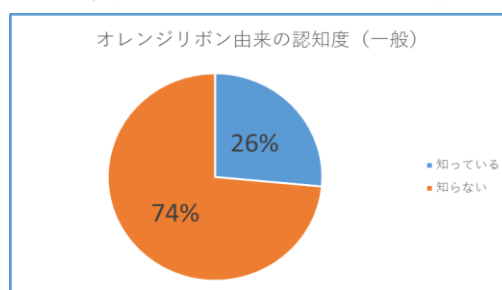
男女比



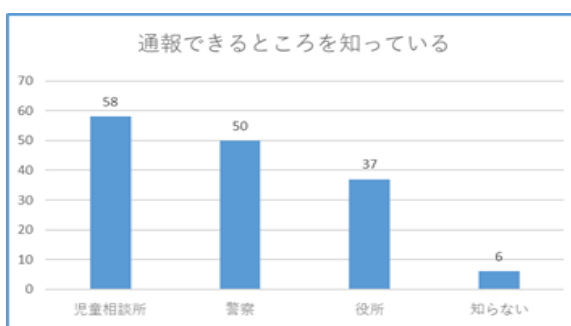
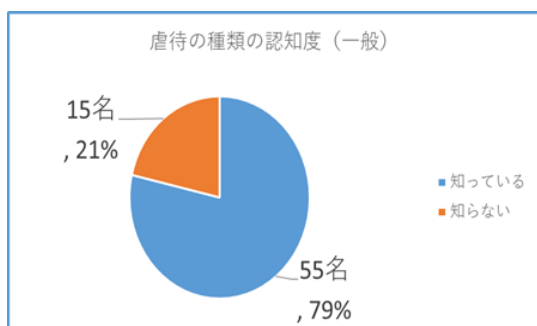
問1 児童虐待防止のシンボルマーク



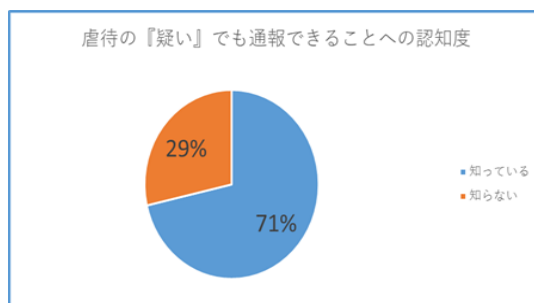
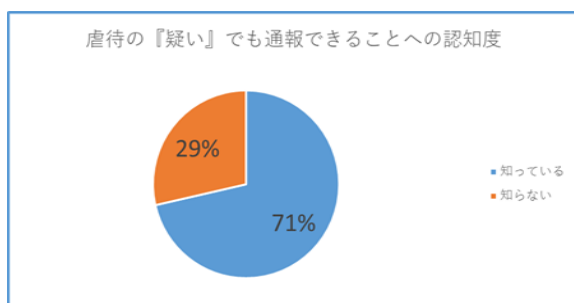
問2 オレンジリボンの由来について



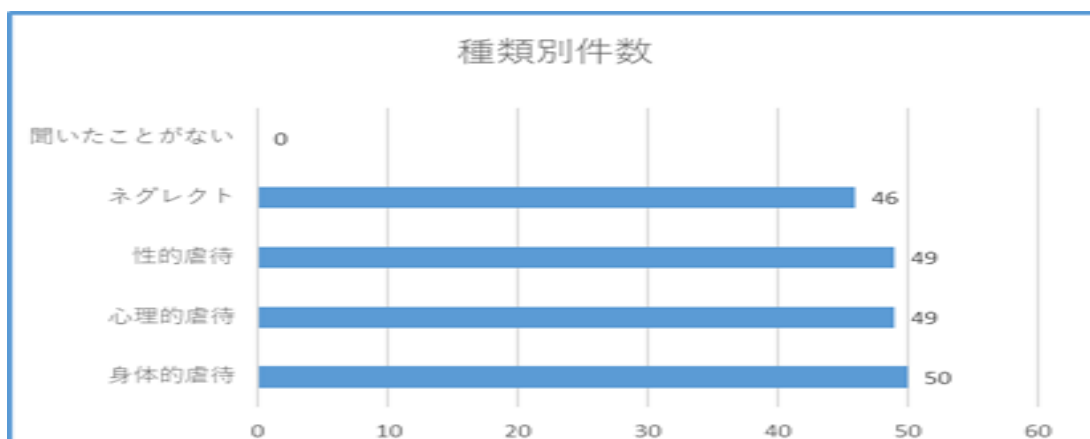
問3 児童虐待の種類について知っているもの 問4 通報ができるところ



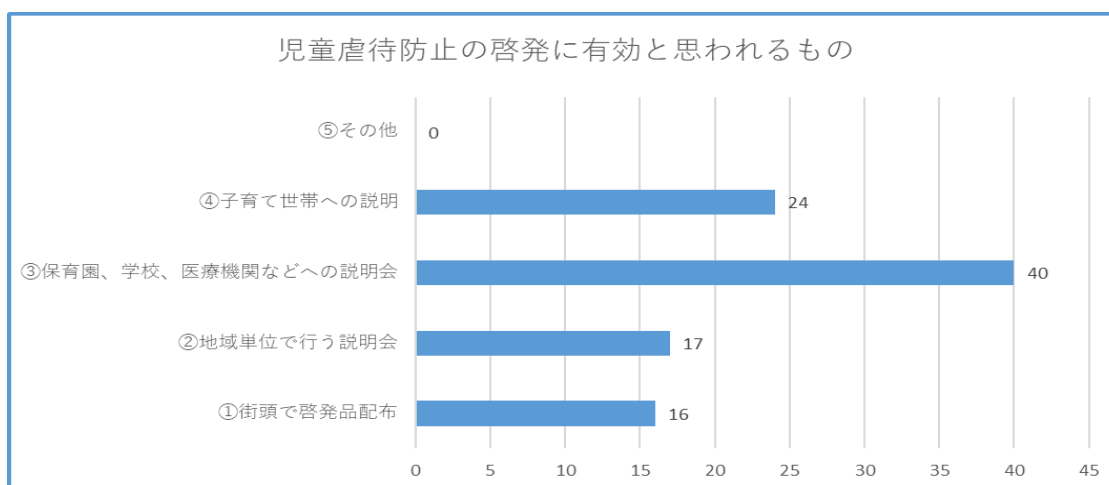
問5 通報は、疑いがあると思うでもできること 問6 通報しても通報者が特定されないこと



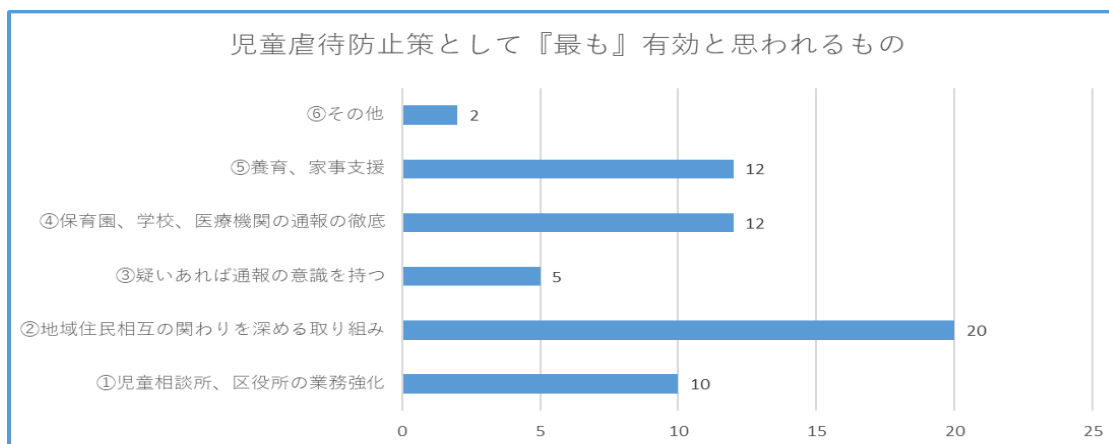
問6 知っている虐待の種類



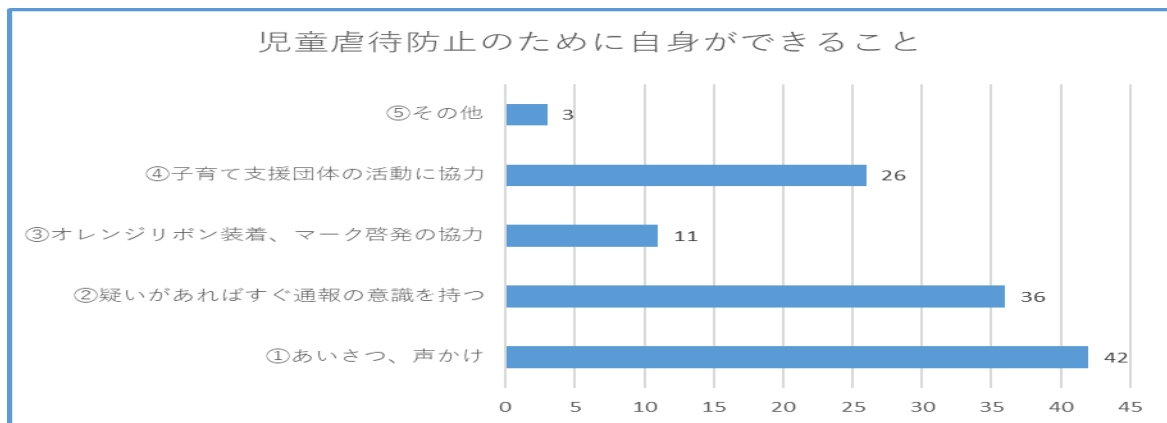
問7 オレンジリボンの周知や児童虐待防止の啓発は、どのような方法が有効だと思いますか。



問8 児童虐待防止のためにどれが最も有効だと思いますか



問9 児童虐待防止のために、あなた自身ができること



一般参加者のアンケート結果のまとめ

参加者数が前年度の約 1.8 倍増加した。

- ・前年度同様、参加者の年代は 70 歳代の割合が最も多いが、他の年代の参加者割合が増加している。
- ・参加者男女比率は、前年度とほぼ変わらず。
- ・オレンジリボンの認知度は、前年度とほぼ変わらずか若干減少（前年 76%から 71%）
- ・オレンジリボンの由来の認知度は、前年度とほぼ変わらずか若干減少（前年 30%から 26%）
- ・虐待に種類があることへの認知度は、前年よりやや減少している（前年 84%から 79%）が、「知っている」と回答した者は、身体的・心理的・性的・ネグレクトの全てに回答している者が多かった。
- ・虐待の疑いでも通報できることを「知っている」と回答した者は、前年度とほぼ変わらずか若干減少（前年 78%から 71%）
- ・通報者が特定されないよう配慮されることを「知っている」と回答した者は前年度に比べ若干減少（77%から 68%）
- ・オレンジリボンの周知、児童虐待防止の啓発に有効だと思われる方法では、「③保育園、学校、医療機関などへの説明会」が最多で、次いで「④子育て世帯への説明」が多く回答された。回答の多かった順位は前年度と同じであった。
- ・児童虐待防止のために最も有効であると思われる対策では、前年度同様、「②地域住民相互の関わりを深める取り組み」が最多であった。次いで、前年度は「③疑いあれば通報の意識を持つ」という個人での対策に回答が多く集められたが、本年度は「④保育園、学校、医療機関の通報の徹底」や「⑤養育、家事支援」に回答が多く集められ、社会組織全体での対策が重要視されてきている。
- ・児童虐待防止のための自身の取り組みでは、「①あいさつや声掛けを心掛ける」が最多であり、問 8 での回答と同様に、地域住民相互の関わりを深めることへの関心が高まっている。

9. 公開講座の様子(写真)



総合司会 森脇未希
・オープニング



ボランティアサークル長 田中友梨



広島文化学園大学看護学部 吹奏楽部
・シンポジウムの様子



西延崎プラチナクラブレディースハンドベル部



ファシリテーター ボランティアサークル 道原彩乃 楠岡千乃



シンポジスト左から、呉市主任児童委員 中岡博美様、稲垣ファミリーホーム職員 中田友美様、
稲垣ファミリーホーム管理者・専門里親 稲垣りつ子様、NPO法人 ピピオ子どもセンター弁
護士 坂本啓介様、呉市子育て支援課 山口弥生様



・呉氏 Jr によるダンス



呉市 Jr の皆さんと進行インタビューするのは、3年生 東森佑真

・ハワイコーلزによる演奏とウイラニによるフラダンス



・曲のイメージに合わせてオレンジリボン配布



・感謝状および記念品の贈呈



田中友梨、松岡美咲から主任児童委員沖本様へ

沖本八洲子様スピーチ

・広島文化学園大学看護学部 学部長挨拶



学部長 山内京子

市民公開講座を運営した学生、支援教員

ボランティアサークル、1年生今坂ゼミ、4年生加藤ゼミ、吹奏楽部、自治会ボランティア

以上

今後も、学生主体によるオレンジリボン啓発活動を支援していきたいと思います。

児童虐待に関するボランティアサークルの2019年度の取り組みについて、NPO 法人児童虐待ネットワークホームページに掲載されている報告書を添付し、合わせて報告とさせていただきます。

広島文化学園大学看護学部ボランティアサークル

顧問 加藤重子